

令和元年度 学 校 評 価 報 告

草加市立栄中学校

(令和2年2月10日作成)

1 学校教育目標 ○学校教育目標 ・自ら学び考え行動する生徒 ・豊かな心を持ち思いやりのある生徒 ・健康でたくましい生徒 ○目指す学校像 ・一人ひとりがかけがえのない存在として大切にされ、人権や生命が尊重される学校 ・生徒も教職員も元気で明るく活力のある学校	
2 重点目標・努力目標 ○重点目標 ・「いいところ探しの学校」として「一人ひとりのよさを認め、伸ばし、育てる」教育を推進する。 ○努力目標 ・わかる授業を実践し、学力向上を目指す。 ・感動の共有場面を持ち、学校の一体感を醸成する。	3 前年度の成果と課題 成果 ○教育課程のコンパクト化で教職員の笑顔が増え、生徒と向き合う場面が多く持てた。 課題 ●授業評価において職員の意識と生徒の意識の差を縮めることがやや物足りなかった。

4 評価表 ※評価基準〔A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である〕				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○教育課程のコンパクト化を図り、教職員の余裕を生み出し、生徒との向き合える場面を多く持つことができた。 ●分掌の改廃があまり進められなかった。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	B	○道徳における栄中の授業スタンダードが確立してきた。 ●小学校との相互授業参観がやや不足していた。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	B	○来年度学区内での小中合同の引き取り訓練等の見通しが持てた。 ○養護教諭との連携がなされ、感染症等大きな流行を予防でき、学級閉鎖等なく進められた。 ●今後、主体的に避難行動がとれるような訓練を実施したい。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	B	○校内規定による個人情報管理等は組織的に取り組むことができた。 ●公簿の取り扱いに危機感が足りない場面があった。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会、 学校評議員制度の活用 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	A	○HPを毎日更新して学校の様子、生徒の様子を発信することができた。 ○唯一の敬老会学校実施校として地域活動に協力できた。 ●学校運営協議会設置に向け、教職員の意識がやや低い。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じた教育課程の編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	A	○学区内での目指す子ども像を設定、共有の洗い直しができた。 ●小学校との相互授業参観がやや不足していた。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅱ 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	・15年間を通じた教育課程の編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保	A	○概ね年間計画通り教育活動を展開することができた。 ●学年間の調整をしっかりと見届ける。
	②教科指導	・指導計画の立案 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用	B	○見通しを持たせる、振り返りをさせるという意図が少しずつ見られるようになった。 ●校内での相互授業参観をしながら自身の授業力を高めようとする動きがやや鈍かった。
	③道徳教育	・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進	A	○道徳における栄中の授業スタンダードが確立してきた。 ●評価ありきではなく、道徳の時間を要としての道徳性を育むという視点をしっかりと持ちたい。
	④特別活動	・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・生徒会活動	A	○学校行事、学年行事に感動の共有場面を意図的に計画でき、生徒の達成感を高められた。 ●学級会をもう少し充実させたい。
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用	B	○生徒の主体的な活動があり、プレゼンテーション力も高まった。 ●外部人材の活用などが不足していた。
	⑥生徒指導	・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、生徒理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携	A	○校則の見直し、生活のきまりの洗い直しに取り組むことができた。 ●いじめ防止に向けてもう一度校内のいじめ防止対策方針の共有、研修を進めていく。
	⑦キャリア教育	・組織的なキャリア教育 ・指導方法の工夫と改善 ・啓発的経験の充実 ・進路情報の収集・活用 ・職場体験活動	B	○新しく高校の先生に出前授業をしていただき、より具体的な進路計画を持てるようになった。 ●進路＝高校進学ではなく、自身の将来像、未来像を持たせる工夫がなかなかできなかった。
	⑧特別支援教育	・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備	A	○学校全体に特支学級を見守る雰囲気があり、温かい人間性が育っている。 ●担当者まかせにすることなく、全職員で取り組むという体制を今後も進める。
	⑨学校図書館教育	・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫	A	○司書教諭、学校司書の連携により、蔵書の管理が円滑に行われている。 ●貸出数ありきではなく、本に親しめる雰囲気づくりを今後も継続していく。
	⑩情報教育	・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進	B	○PC教室での授業、ICTを活用した授業が増え、生徒のPCに触れる機会が多くなった。 ●SNSの使い方についてはまだまだ指導が必要な場面がある。
	⑪人権教育	・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実	A	○人権作文、人権標語などを通して生徒の人権感覚が育ってきている。 ●作文、標語をこなすだけではなく、学校全体に他者を認める雰囲気を醸成したい。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	幼保小中一貫教育	・15年間の系統的教育	A	○15年の学びの枠組みの中で目指す草加っ子の具現化に迫り、学区内で共有できた。 ●ここまでの研究を次の研究主題に円滑に接続していきたい。
	地域に開かれた学校	・保護者、地域との連携	A	○敬老会、はっぴいフェスタ、防災地域参集等を通して保護者、地域との一体感を醸成することができた。 ●学校運営協議会への周知、理解を進めていきたい。
	HPの更新	・HPの更新	A	○HPを毎日更新し、学校の教育活動の説明ができた。 ●一方的な発信ではなく、地域の声を聞いた発信にも心掛けたい。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- ・教育課程をコンパクトにする場面を増やし、職員の余裕を生み出し、生徒と向き合う場面を多く持つことができた。
- ・生徒は概ね落ち着いた学校生活を送ることができ、授業、部活動、学校行事に前向きに取り組むことができた。
- ・草加っ子の学びを支える授業の5か条を意識した授業展開を意識した授業実践が少しずつだが定着してきた。
- ・組織的な生徒指導、教育相談活動に取り組んだ結果、僅かであるが不登校数減少につなげることができた。
- ・校長室だよりを通して風通しのよい職場づくりに取り組み、職員の学校運営参画意識を醸成できた。
- ・HP等で学校の生の姿を発信し、本校の教育活動に関心を持ってもらえた。

6 次年度の改善策

- ・職員の入れ替わりが進み、栄中をよく知っている職員が減っていく中で教育活動を停滞させないためにも、職員一人一人に経営参画意識を持たせたい。
- ・学校運営協議会を設置し、地域とともに教育活動を展開できる組織体制を維持していく。
- ・前年踏襲を少しずつ見直し、学校行事、校務分掌を精選、改編し、働き方改革と合わせて働きがいのある職場づくりを継続していく。
- ・授業の中でも特に、「見通しを持たせる」こと、「振り返りの時間を持つ」ことに重点を置いた授業展開の研修を進めていく。
- ・いじめ根絶のため、定期的に開くいじめ対策会議、定期的、継続的な教育相談活動、生活アンケートを活用し、アンテナを高く生徒を見守っていく。
- ・若手教員資質向上に向け、管理職のリーダーシップの下、先輩教員が意図的、計画的に育成に関わるプログラムを構成していく。